

教 育 研 究 業 績 書

2020年 5月 1日

氏名 横 田 由 紀 子

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド
1. 文学	日本文学 (分割2)
2.	
3.	

教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例		
2 作成した教科書, 教材	2019年3月31日	『幼稚園・保育園で使いたい 読み聞かせ絵本』(共著)
3 教育上の能力に関する大学等の評価		
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他		

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事 項	年 月 日	概 要
1 資格, 免許	昭和52年3月	小学校教員1級普通免許、中学校教員1級普通免許(国語)、高等学校2級普通免許(国語)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 『「函館の貴重児童資料」論集』	共著	平成22年11月	「函館貴重児童資料の公開と記録集作成」実行委員会	2004年旧市立函館図書館の屋根裏書庫から見つかった児童雑誌、児童図書を「函館の貴重児童資料」と呼ぶ。2004年から児童雑誌の書誌的整理を担い、その後日本児童文学学会北海道支部の有志で調査・研究を進め、発表した論文を収録した。横田は、国内では唯一の所蔵となる植民地時代の台湾で発行された児童雑誌・子ども向け新聞の研究を担当した。
2. 函館市中央図書館所蔵・児童雑誌付録展図録「子どもたちの夢・あこがれの玉手箱」	共著	平成24年11月	「函館の貴重雑誌付録の公開」実行委員会	児童雑誌の付録は、出版した会社にも殆ど保存されていないのが現状である。しかし、付録を見るとその当時の社会の様子や子どものおかれた状況を知ることができる。付録は児童文化史の点からもきわめて貴重な物なのである。今回公開した付録の説明・解説を付録の写真とともにまとめた図録である。横田の担当は少女雑誌の付録解説(小説・スタイル画、など)である。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 3. 『幼稚園・保育園で使いたい 読み聞かせ絵本』	共著	2019年3月31日	北海道えほん研究会	年々絵本を知らない学生が増えてきている現状の中で、なんとか優れた絵本を学生たちに1冊でも多く伝えたいという願いから、札幌市内の保育者養成に携わる教員有志による研究会がより活用できる資料となるようにと執筆した。横田の担当は119-138頁である。
4. 『台湾子供世界』・『台湾少年界』一戦前期台湾児童文化雑誌〔全六・別冊〕	編・解題担当	2020年1月	金沢文圃閣	これは日治時期台湾で発行された児童雑誌を復刻したもので、極めて貴重な資料である。原本は函館市中央図書館所蔵であり、全国で唯一函館にのみ所蔵が確認されている。復刻版の出版にあたり、横田が編集、さらに解題を試みたものである。
(学術論文) 1. 「台湾日日新報社発行『まや子』について」	単著	平成22年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第5号 (通巻14号)	P41-44 『まや子』は現在『みつばちマーヤの冒険』として知られているボンゼルスが著した児童文学の翻訳である。この『まや子』は、翻訳者が直接作家のボンゼルスから翻訳許可をとった最初の訳である。『まや子』は台湾の新聞社から出版されているが、その背景を論じた。
2. 「更科源蔵と児童文学(三)―「湖のほとり」を考える	単著	平成23年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第6号 (通巻15号)	P53-57 更科が新聞に連載していた児童向けの物語について、後の「原野シリーズ」に通じるものとしての観点から論じた。
3. 「東日本大震災と賢治の受容―覚え書きとして―	単著	平成24年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第7号 (通巻16号)	P25-32 東日本大震災後、宮沢賢治の詩や童話が数多く引用された。有名な詩「雨ニモ負ケズ」は、その最たるものであったが、第二次世界大戦の際にも賢治の詩は、戦意高揚の道具として使われたことを念頭に置く必要はないか。天災だけではなく、人災であった部分から眼をそらすための道具とされてはならない、と論じた。
4. 「更科源蔵 未刊の童話集」	単著	平成25年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第8号 (通巻17号)	P10-17 更科源蔵には、童話集として出版されるはずだった童話があった。未刊の童話集として存在を知られていた童話が発見されたことで、その童話を調査・研究したものである。
5. 「更科源蔵の童話創作開始時期を考える」	単著	平成26年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第9号 (通巻18号)	P10-17 更科源蔵の詩の仲間である、山形の真壁仁は、遠く離れた地にありながら、常に励まし、理解しあう友であった。その二人の往復書簡を丹念に読むことで、更科の児童文学に寄せる思い、いつごろから取り組んでいたのかを論じた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 6. 「後藤竜二論—『故郷』『風景』を中心に」	単著	平成27年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第10号 (通巻 19号)	P 12—20 ・後藤竜二は現代北海道児童文学において代表的な存在であった。子どもの生活実態に根ざした数多くの作品を刊行したが、その陰で故郷を捨ててしまったという深い自省の思いを抱えていたのではないかと論じた。
7. 加藤多一のファンタジー作品について—『きこえる きこえる—ぼう神物語』論—	単著	平成28年6月	日本児童文学学会北海道支部機関誌『ヘカッチ』第 11 号 (通巻 20号)	P 48—P 52 ・加藤多一は後藤竜二と並び、現代北海道児童文学を代表する作家である。加藤の数少ないファンタジー作品をもとに、児童文学と一般文学との境界について論じた。
8. 柴村作品を読む	単著	平成29年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌「ヘカッチ」第 12 号 (通巻 21号)	P 2—P 10 ・柴村紀代は、後藤竜二・加藤多一と並び、現代北海道児童文学を代表する作家である。柴村の創作作品・評論は数多くあるが、特に1970年から90年代にかけての作品を中心に考察し、その時代の柴村作品がいかにか時代を映していたか、柴村の持つ問題意識を探った。
9. あべ弘士の絵本『エゾオオカミ物語』論—野生動物の死の描き方を中心に—	共著	平成29年3月	絵本学会研究紀要No.19 (査読あり)	・あべ弘士の動物絵本の特徴を、野生動物の死の描き方を中心に論じた。
10. あべ弘士の動物絵本—『ライオンのよいいちにち』を中心に—	共著	平成30年	藤女子大学人間生活学部紀要第 55 号	P. 101-115 ・『ライオンのよいいちにち』はライオン3部作の1つであり、物語絵本という新たな境地を開き、動物絵本作家としての位置が固められる時期の作品である。野生動物の物語化に焦点をあて、3点から考察した。
11. 豊かな言葉や表現につながる絵本の選択について—オノマトペ絵本を中心に—	共著	平成30年3月	札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部紀要第 48 号	P 91-102 ・「言葉」というものに重点をおき、絵本の選定について考察した。今回は「オノマトペ絵本」を中心とし、従来、赤ちゃん絵本として選定されることが多い「オノマトペ絵本」を3歳以上児にも積極的に読み聞かせることを提案した。
12. 絵本学会依頼により「絵本研究参考文献目録」作成	共著	平成30年3月		・絵本学会紀要「絵本学」No.20 P 43-62 ・2017年1月から12月発行の単行本、図録、雑誌(絵本誌、子どもの本・子どもに関する雑誌・一般誌等)、紀要論文等で、絵本に関する記載があるものをすべて目録として作成したものである。(横田は雑誌を担当した、P 48-54)

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(学術論文) 13. 「台湾少年界」 発行人一楊天送に関する資料から	単著	平成30年5月	日本児童文学学会北海道支部機関誌「ヘカッチ」第13号(通巻22号)	日治時代台湾で発行された児童雑誌「台湾少年界」についてこれまで研究してきたが、発行人の楊天送に関わると考えられる新資料を台湾で発見した。今回はその資料の概要をまとめた。p. 56-p. 61
14. 絵本の絵の比較を通しての考察	単著	2019年6月	日本児童文学学会北海道支部機関誌「ヘカッチ」第14号(通巻23号)	学生に課した「絵本の絵」を丹念にみていくことを通して、「絵本を学ぶ」ということについて考察した。
(その他) (口頭発表) 1. 「北海道の代表的詩人 更科源蔵の未刊の童話集」	単著	平成23年11月	日本児童文学学会第50回研究大会	更科源蔵の未刊の童話集について、童話のあらすじ、誰の依頼によって書かれていたのか、発見の経緯、何故未刊になったのかを論じた。
2. 「更科源蔵と真壁仁との往復書簡をめぐる考察」	単著	平成25年11月	日本児童文学学会第52回研究大会	更科源蔵の詩の仲間である、山形の真壁仁は、遠く離れた地にありながら、常に励まし、理解しあう友であった。その二人の往復書簡を丹念に読むことで、更科の児童文学に寄せる思い、いつごろから取り組んでいたのかを研究・発表を行った。
3. 「更科源蔵・真壁仁往復書簡から、宮沢賢治受容を考える」	単著	平成26年10月	日本児童文学学会第53回研究大会	更科と真壁は宮沢賢治の、農に生きながら文学に打ち込む姿勢に深く共感していた。二人の往復書簡は、北海道における初期の賢治受容を考える、重要な資料となる。書簡を丹念に読み込み、研究した成果を発表した。
4. 「植民地台湾で発行された『台湾少年界』の考察」	単著	平成27年11月	第54回日本児童文学学会研究大会	函館中央図書館が所蔵する、植民地台湾で発行された児童雑誌「台湾少年界」は、函館にしか現存しないきわめて貴重な雑誌である。発行した人物等、未解明の部分も多いが、限られた資料の中での内容等の考察を論じた。
5. 「あべ弘士の動物絵本—野生動物の死をどう描いたか」	共著	平成28年5月	第19回絵本学会	・北海道在住のあべ弘士が絵本の中で、野生動物の死をどう描いたかを『エゾオオカミ物語』を中心に論じた。
6. 『台湾少年界』の発行人・楊天送についての考察	単著	平成28年10月	第55回日本児童文学学会研究大会	・『台湾少年界』の発行人・楊天送について、台湾で発見した新資料をもとに論じた。
7. あべ弘士の動物絵本—『ライオンのよいいちにち』を中心に	共著	平成29年5月	第20回絵本学会	・あべ弘士が野生動物を絵本の中でどう描いているか。単に写実ではなく、擬人化でもない、あべ独自の「物語への引き寄せ」が働いているのではないかと論じた。

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(その他) (口頭発表) 8. あべ弘士による宮沢賢治の詩「旭川。」の絵本化について	単著	2019年6月2日	第22回絵本学会	・あべ弘士の絵本『宮沢賢治「旭川。」より』の作品分析を試みたもので、賢治の詩から生み出された自分なりのイメージを絵として絵本を創造したものと論じた。
(その他) (講師) 1. 北海道立文学館・ウイークエンドカレッジ講師 「北海道立文学館所蔵資料解説・『児童雑誌』の中から」 2. 北海道立文学館・ウイークエンドカレッジ講師 3. 北海道立文学館・ウイークエンドカレッジ講師		平成26年7月25日 平成30年8月18日 2019年10月19日	北海道立文学館 北海道立文学館 北海道立文学館	北海道立文学館が所蔵している貴重な児童雑誌を、北海道の雑誌を中心に紹介した。児童雑誌の多くは現存するものが少なく、特に北海道という地域限定で発行された雑誌は大変貴重なものである。 文学館カレッジ第3回オノマトペ絵本について担当した。 文学館カレッジ、バーナデット・ワッツの絵本について担当した。
(研究資金) 1. 独立行政法人日本学術振興会科学研究費補助金研究成果促進費 2. 「財団法人太陽北海道地域づくり財団平成22年度助成」 3. 独立行政法人日本学術振興会平成25年度科学研究費助成事業(科学研究費補助金)(研究成果公開促進費)	共 共 共	平成18年～平成20年 平成22年 平成25年		・ネット公開 「函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース」 ・「函館児童雑誌コレクション及び北海道児童雑誌データベース作成委員会」 柴村紀代(藤女子大学)、谷 暎子(元・北星大学)、横田由紀子(日本児童文学学会北海道支部) ・「函館の貴重児童資料の公開と記録集作成」 ・日本児童文学学会北海道支部 ・「函館貴重児童雑誌付録・児童雑誌データベース」 ・「函館貴重児童雑誌付録・児童雑誌データベース作成委員会」 柴村紀代(藤女子大学)、谷 暎子(元・北星大学)、高橋晶子(光塩短期大学・非常勤)、横田由紀子(札幌大谷大学短期大学部・非常勤)